

れた資源を大切に!

私たちの住むまちはゴミが増えつづけています。「省資源」「リサイクル」という言葉をよく耳にしますが、豊かな生活を求める半面で、ゴミが増えるという皮肉な構図が浮かび上がってきています。

環境問題というと、私たちの暮らしとは無関係、行政が考えることだと思われがちですが、私たち一人ひとりの取り組みこそが大切で、その積み重ねがよりよい環境を守ることにつながるのです。

そこで、今回は、「リサイクルの代表格」としてのアルミ缶にスポットをあててみました。

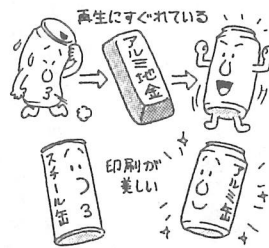
何回でも再生が可能

アルミニウムは再生の面ですぐれた素材です。再生しても品質が変わらず、何回でも再生利用が可能——それがアルミニウムです。

このアルミニウムを使ったアルミ缶には、「軽い」「よく冷える」などメリットも多く、アメリカでは、飲料缶の容器の96%以上をアルミ缶が占めているそうです。(日本では32%)

省エネ効果ばつぐん

ところで、アルミニウムのことを「電気のかたまり」「電気



の缶詰」などと呼ぶことをご存じですか?これはアルミニウムの製錬に、多くの電気が使われるからです。ところが、アルミ缶などを溶かして再生すれば、新たにアルミニウムをつくるのに比べ、わずか3%のエネルギーしかかかりません。アルミ缶のリサイクルが、省エネの面で脚光を浴びているのはこの点にあります。

「ゴミ」の語源

「にごった水にとけてまじっている泥」が第1、次に「ちり。あくた。ほこり。つまらないもの」(広辞苑)とあります。語源は「チリゴミ(散込)」「ゴミの濁音化」(日本国語大辞典)などの諸説があり定まらないようです。

いずれにしても、小さくて、とるに足らないもので、ほうっておけばなくなるようなしるものがゴミのようです。



飲んだあとのあき缶などは、決められたところへ